

効率よく消化液散布するためのサテライト貯留槽



下川F S しぼりんは稼働後、消化液の貯留槽の容積が足りないことが判明。
増設する際、耕種農家の多い地区にあえて貯留槽を建設。
(下川F S から 7. 5 k m、松岡牧場から 1 5 k m)

輸送は農閑期の3月に行っている。



輸送には、写真の大型車を使用。
トラクターでは、燃費が悪く、
タイヤ等にかかるコストが大きく、
路面凍結の際は危険すぎる為。
排出用ホースを脱着できる。
使用しない時はタンクを降ろし
普通のトラックとして利用している。

温室効果ガスの削減？効果

考えられること

- ① 化石燃料に由来しない、電気エネルギー、熱エネルギーの産生。
元々は、植物由来。カーボンニュートラル。
- ② 消化液（完全な有機肥料）を産生することも、化石燃料に由来しない。
完熟堆肥生産は今の段階では、化石燃料無しでは難しい。
- ③ 温室効果がCO₂の約300倍の一酸化二窒素（N₂O）を出さない？のでは。

その他の環境負荷削減効果

- ① 排水をなくす事ができる。



一体どれだけのN₂O出してる？

今後への期待

- ① 送電線網を整備し、まず地元、そして札幌、本州へ、バイオガスプラントを増設し、再生可能エネルギーの利用割合の拡大。
- ② バイオガスプラントは電気が全てではなく、全て熱に変え、地域熱供給システムなどを作れないか？
- ③ 将来の水素社会の到来にむけ、メタンガスから水素の取り出し。また、ギ酸の製造等。

この3点に期待する。

2023年5月 デンマーク ロラン島を訪問。そこにあった理想。

元々、山がなく風力発電に適した風が1年中吹くことから、50年前のオイルショック以降、風力発電が産業として成熟し、この島のエネルギー自給率は現在800%と言われる島。農業はビート、小麦、菜種、酪農もあった。



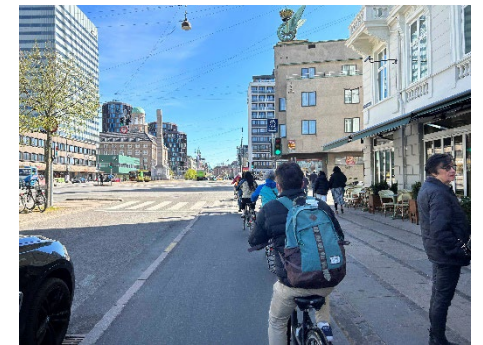
農地に立つ風車。エネルギー自給率800%を可能にしている送電線網があるのがまた凄い！



麦稈を燃やしての地域熱供給システム。1000戸に熱供給。バイオガスでも応用できる。稲わら等でも出来ないか？



コペンハーゲンの廃棄物発電、地域熱供給システム
コペンヒル。屋根では1年中スキーができる。
滞在中のシャワーは全てこうした熱由来によるもの。



コペンハーゲンの自転車専用レーンを自転車で走った。日本は自動車を使い易くしようとする社会だがここでは.....